

淡路北スマートインターチェンジの 開通について

兵庫県 淡路市 企画情報部 まちづくり政策課

1 はじめに

令和2年3月29日（日）に開通した淡路北スマートインターチェンジは、淡路市、株式会社夢舞台及び本州四国連絡高速道路株式会社で事業を進めてきた民間施設直結スマートインターチェンジです。

本スマートインターチェンジは、民間施設である「淡路ハイウェイオアシス」と接続するスマートインターチェンジで、民間施設直結スマートインターチェンジとしての供用は、全国初となります。

本スマートインターチェンジが位置する淡路市は、兵庫県南部にある淡路島の北部から中部に位置し、北に明石海峡、東に大阪湾、西に播磨灘を臨む美しい海岸線や緑豊かな自然環境に恵まれた市です。

気候条件は比較的温暖であり、豊富な日照量を生かした太陽光発電施設等が多数整備されており、多様な再生可能エネルギーの導入と促進を図っています。

農業では、中山間地域の特性を活かした繁殖和牛の飼育や花卉栽培等の農畜産業が盛んに行われ、漁業では、四季折々の新鮮な魚の漁獲に加え、冬季には海苔やワカメの養殖等が行われています。

産業では、線香が日本一の生産量を誇り、平成30年には全国ハーブサミットが本市で開催されるなど「香り」を活かした海外向けの商品開発も行われています。

観光面では、夏の海水浴シーズンには、京阪神をはじめ各地から多くの観光客が訪れます。また、国生み神話の「伊弉諾神宮」をはじめ、「五斗長垣内遺跡」・「舟木遺跡」等、多様な文化遺産に恵まれ、平成28年度には淡路島が「国生みの島・淡路」として日本遺産に認定されました。西海岸では新たな観光施設が続々とオープンしており周辺施設との連携が強化され、淡路島の魅力が向上し観光客の増加につながっています。

「いつかきっと帰りたくなる街づくり」をキャッチフレーズに掲げる本市では、「特色ある教育の充実」、「企業誘致の積極的な推進」、「総合的観光施策の充実」、「少子対策」、「市民の安全安心対策」の5本柱を重点項目とし、淡路市に住んで良かった、淡路市に帰ってきて良かった、淡路市を訪れて良かったと思える街づくりを推進しています。



図 淡路市位置図

2 淡路ハイウェイオアシスについて

淡路北スマートインターチェンジと接続する「淡路ハイウェイオアシス」は、淡路サービスエリアと兵庫県立淡路島公園を連結する位置にある複合観光施設です。レストランや物産展、イベント広場や庭園等がある施設で、年間約160万人が訪れる来場者数が県内第4位（平成30年度）の観光施設となっています。

アトリウム空間が広がるオアシス館がメインとなり、淡路島グルメを堪能できるカフェやレストラン、淡路島土産を堪能できる物産展、淡路島玉ねぎスープを無料試飲できるスープスタンド、世界でたった一つの竹ちくわの自販機などがあります。

花と緑と絶景が広がり、地元ならではの旬の味わいを堪能でき、休憩だけでなく、1日中遊んで過ごせる施設となっています。



図 淡路ハイウェイオアシスについて

3 スマートインターチェンジの整備について

淡路島北部のこれまでの課題として、淡路インターチェンジ流入後には淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアを利用することが道路構造上できず、淡路島北部での観光後に淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアを利用するには、淡路インターチェンジより南にある東浦インターチェンジを経由するしかアクセスできませんでした（淡路インターチェンジ周辺から淡路ハイウェイオアシスにアクセスするには隣接する有料駐車場から徒歩でのみ可能）。



図 淡路島内IC箇所図

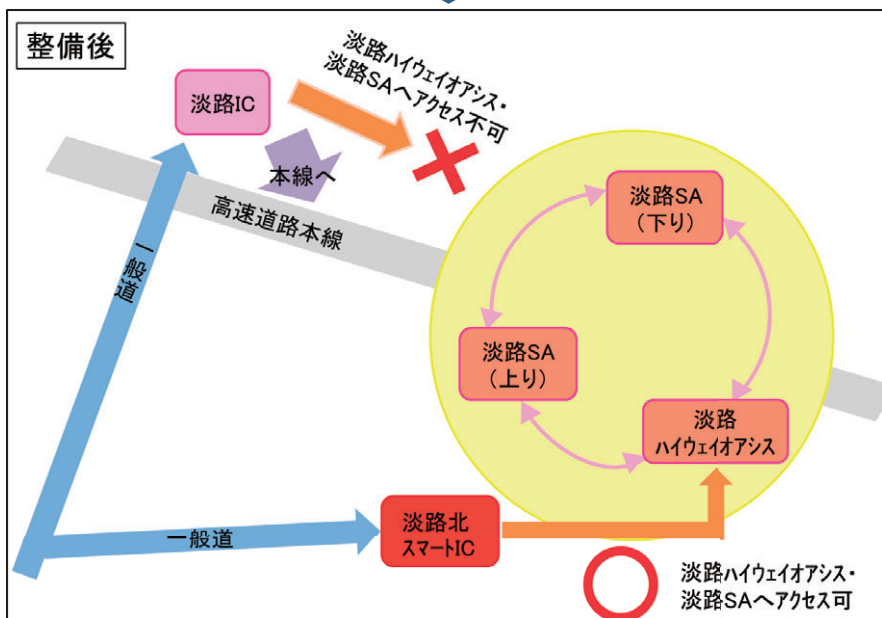
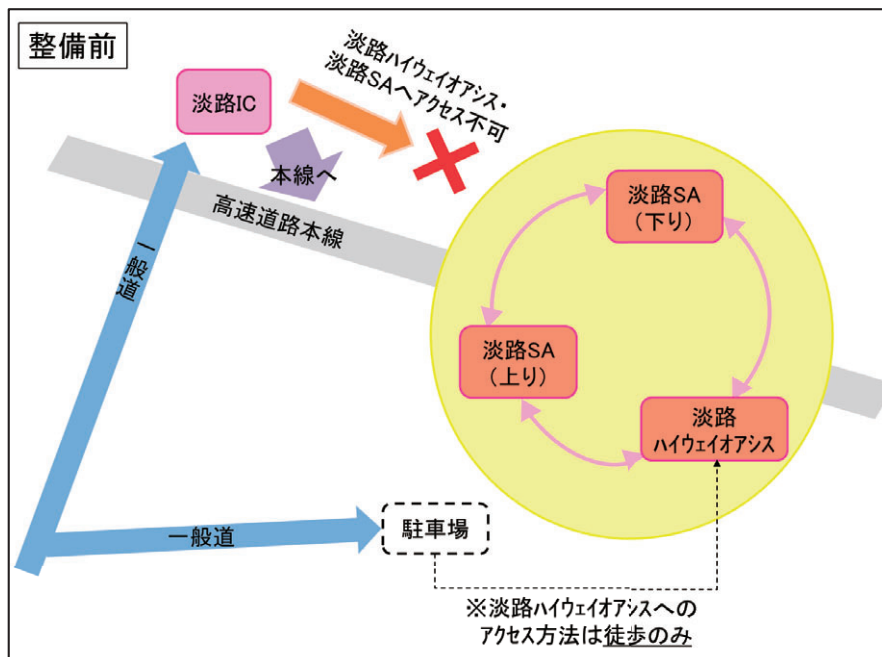


図 整備前後の模式図

また、観光シーズン時には淡路インターチェンジ周辺道路での渋滞が発生していることも課題となっていました。

これらの課題を解決するため、平成29年に創設された民間施設直結スマートインターチェンジ制度を活用し、淡路ハイウェイオアシスに直結する民間施設直結スマートインターチェンジ事業を平成31年3月から着手しました。

本スマートインターチェンジは、入口専用のスマートインターチェンジであり、コンパクトな設計で用地買収が不要であったことから、早期に工事を開始することができたため、事業着手から1年後の令和2年3月に開通を迎えることができました。

今回の整備により、本スマートインターチェンジを入口として、淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアでの食事や買い物をした後に、高速道路本線に乗ることができるほか、本線を通行せず淡路インターチェンジから出ることもできるようになりました。

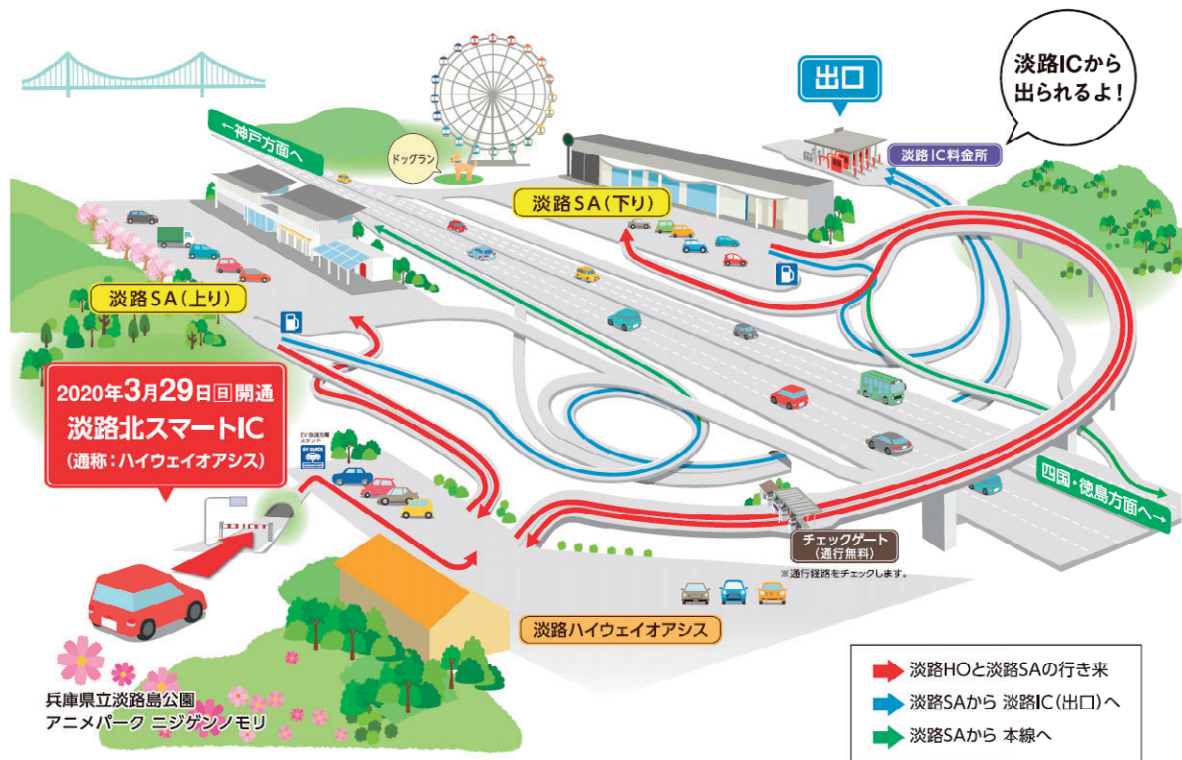


図 淡路北スマートインターチェンジ・淡路ハイウェイオアシス・淡路サービスエリア利用図

(提供：本州四国連絡高速道路株式会社)

4 整備効果について

(1) 淡路ハイウェイオアシス・淡路サービスエリアへの利便性向上

淡路北スマートインターチェンジが整備されることにより、高速道路本線に流入する前に車で直接淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアに立ち寄ることができるようになり、淡路島北部の観光地からの移動時間の短縮が見込まれ、利便性が向上します。

(2) 地域経済の活性化

淡路北スマートインターチェンジの整備により、淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアのアクセス性が向上することから、両施設の利用客数の増加につながります。また、施設で提供される食事や土産物に地域性豊かな食材や農産物・海産物を利用した新商品の開発等が期待され、産業振興の活性化が図られます。

加えて、高速道路本線への流入が淡路インターチェンジと淡路北スマートインターチェンジの2ルートとなることから、観光シーズンにおける淡路インターチェンジ周辺道路の渋滞緩和が期待されます。地域住民の生活への影響が低減されるだけでなく、渋滞による移動制限が解消されることで、観光客の行動意欲が向上し、地域経済への波及が期待されます。

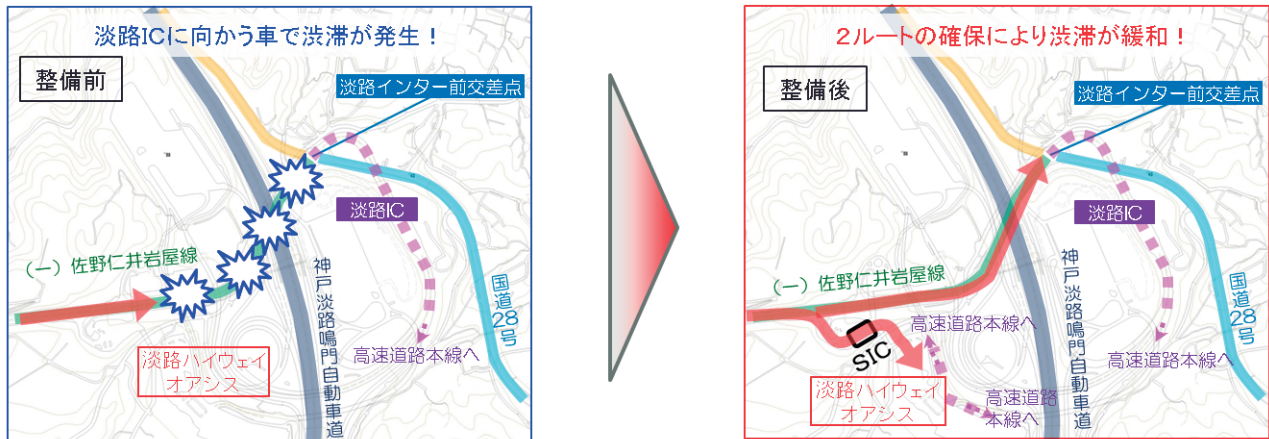


図 渋滞緩和図

(3) 地域の観光軸の強化

今回の整備により、高速道路本線を利用しなくても、淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアで食事や買い物ができることから、両施設は観光交流拠点の1つとなります。周辺の観光施設との連携により淡路島全体の観光地としての魅力が向上し、観光客の増加にもつながることが期待されます。

また、淡路ハイウェイオアシスと淡路サービスエリアが連携した商品開発や新しいイベントの開催など、両施設が一体となった新たな観光施設としての展開が期待されます。

そして将来的には、高速路線バスやコミュニティバスが本スマートインターチェンジを利用すれば、淡路市内の観光地を経由した新たなバスルートが構築されることで観光振興が期待されます。

5 おわりに

令和2年3月29日（日）15時に開通を迎えることができました。

開通当日の交通量は15時からの9時間で約500台と計画交通量600台/日に近い交通量となっており、順調な滑り出しと言えます。

今後も本スマートインターチェンジが多くの方に利用されるよう淡路ハイウェイオアシスと淡路サービスエリアが連携したイベントを開催し、広くPRを進めます。



写真 開通後の様子

スマートインターチェンジ事業は整備するだけではなく、その後の利活用が重要と考えています。

今後も、株式会社夢舞台や本州四国連絡高速道路株式会社等の関係者をはじめ、周辺の観光施設や地元の方々とも連携しながら本スマートインターチェンジの利活用を推進して、淡路島北部の産業の活性化や観光振興につなげ、淡路市に訪れて良かったと思える街づくりに取り組んでいきます。